

35. 和歌山県高野町

1. 地域概要

計画名	聖地高野山の交通渋滞の緩和や持続的な参拝観光地の創出に向けた取り組み
対象エリア	高野山
実施主体	高野町
年間観光客数 (令和5年)	約145万人 (うち外国人約10万人)
年間延べ宿泊客数 (令和5年)	約21万人 (うち外国人約9.3万人)
主な観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ・総本山金剛峯寺 ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」 ・日本遺産「女性とともに今に息づく女人高野」 ・森林セラピー基地「世界遺産高野山 千年の森」



弘法大師空海



世界遺産 奥之院

● 観光ビジョン

国内外から参拝観光客が来山する 山岳仏教都市「高野山」を維持継承する

- ・ 魂が休まる森に囲まれ、塔頭寺院が軒を連ねる、日本の原風景とも謂える独特な景観と静謐な街高野山を護り伝えると共に、歩いて楽しい街、また来たくなる高野山の創造を目指す
- ・ 2034年執行の宗祖弘法大師御入定1200年記念大法会を念頭に、オーバーツーリズム対策の検討を進める

● 推進体制（協議の場）

課題解決における地域関係者

- ・ 地域採択以降、当該関係者が参加する懇談会を計7回開催（4月～6月）
- ・ 地域の声は、地域に根差した団体の他、高野町連合町内会役員の出席

行政機関	事業者	住民関係者
高野町	総本山金剛峯寺	高野山宿坊協会
和歌山県	南海電気鉄道	高野町商工会
	南海りんかんバス	高野町観光協会
	紀陽銀行	高野町連合町内会
	高野山未来創造プラットフォーム	

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 交通渋滞	<ul style="list-style-type: none"> 国内旅行者は、公共交通機関からマイカーによる日帰り旅行に移行 駐車場不足による渋滞やそれによる路線バスの遅延や緊急車両の通行阻害 高野山内の混雑による静謐さ、環境への悪影響 	観光客・住民
2. 増加する観光客の持続的な受け入れへの懸念	<ul style="list-style-type: none"> 年間145万人の観光客が来訪しているが、高野町の住民は2,600人規模であり、急増する観光客を受け入れ続けられるかという懸念がある（公衆トイレの維持管理、駐車場の警備員の配置、ごみ処理、公共インフラや救急や医療体制等の観光インフラの維持） 	地域経済・住民
3. 信者などの宿泊客を十分に受け入れられない	<ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人旅行者が増加傾向にあるが、働き手不足から稼働客室は減少 訪日外国人旅行者の宿坊人気もあり、価格高騰や客室の早期予約により、信者を含む国内旅行者の宿泊が困難な状態となっている 	観光客

1.交通渋滞



紅葉シーズンの交通渋滞様子

2.3.コロナ禍以降のインバウンド需要回復



金剛峯寺を訪れる多くの観光客



人気の高い宿坊の一室
※高付加価値化事業を活用

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 観光客の属性変化 限定的な入域ルート

- 国内宿泊客数は減少する一方、外国人旅行者は大きく増加し、宿泊者の半数を占める
- 国内旅行者が、かつての団体旅行者からマイカーによる日帰り旅行に移行（紅葉シーズンがピーク）
- 鉄道を使用する場合、南海高野線極楽橋から高野山駅（ケーブルカー）下車後、バスで中心部へ移動
- 山内の移動では、中心部を貫通する、県道53号高野天川線を使用する他なく、車両が集中

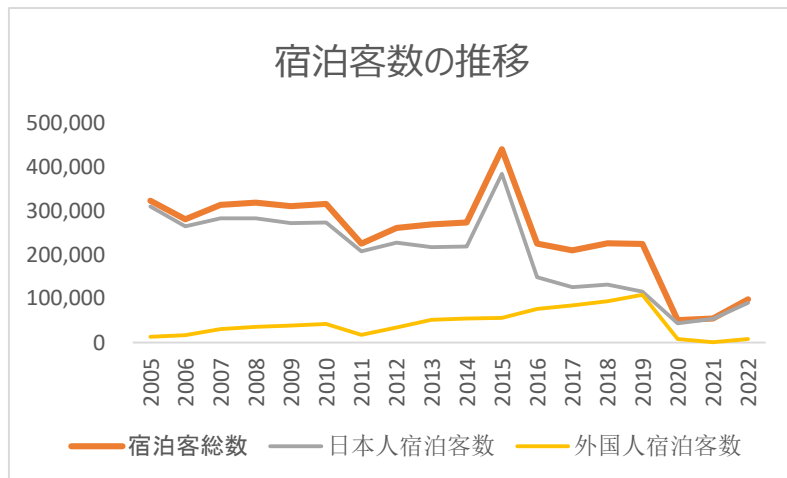
2. 高齢化に伴う税収減

- 高野町では高齢化が加速しており、税収減が想定されている
- そのため、観光税導入における新たな財源確保などが必要であるが、高野山真言宗の総本山であり、観光目的でなく、信仰や参拝、お墓参り等を目的とした信者の数多く、それら来訪者から駐車場代金や徴税することに対し、反発の声が大きいため、信者への配慮が必要である

3. 宿坊の人手不足

- 高野山における観光コンテンツとして、宿坊は誘客力は高いものの、宿坊側の高齢化や担い手不足により、宿坊数や従業員の減少が進んでいる
- 一方で、町外から宿坊で働きたいという声も上がっているが、従業員の滞在先等の環境が整っていない

1. 観光客の属性変化



- 国内宿泊者数は減少する一方で、外国人宿泊者は数右肩上がりで増加している

1. 限定的な入域ルート



- 地図左側、「高野山大門」を起点に、右側「奥之院」へのルートが一般的な観光ルート ※上記○を結ぶ道路を通る他なく、観光客の車が山内に集中してしまう
- 電車の場合も、地図外の高野山駅から、路線バスにて、高野山大門側から入域する

4. 対策の概要

- 紅葉シーズン等繁忙期において、マイカーによる観光客が集中し、中心エリアが大きく混雑することから、2つの駐車場関連事業を実施する
 - マイカー来訪を抑制するための、満空情報の掲載・発信
 - マイカー来訪者の山内滞留を抑制するための、駐車場有料化および無料駐車場への誘導
- 増加する観光客の受入環境増強に向けて、高野山が提供する体験価値の中心である宿坊の雇用不足解消を目指し、人材マッチングおよび滞在拠点の整備を行う
- 観光地としての持続性を高める上で必要となる原資の確保に向けて、法定外目的税導入の検討や、オーバーツーリズム対策全般の継続的な協議の場を設置する



分散・平準化

取組み

① 駐車場対策事業（満空情報の掲載、利用者データ収集）

内容

- 高野山エリア内の混雑状況を可視化・発信し、公共交通機関の利用誘導や最適なルート案内により、**観光客のマイカーでのエリア内流入数減少を図る**
- 取組を通じて、交通データを蓄積させ、今後の渋滞緩和施策への活用につなげる

受入環境の整備

取組み

② ICTを活用した駐車場の有料化

内容

- 中心部の駐車場が無料であり、長時間駐車が多く、回転率が悪い
- 高野山エリア中心部の駐車場を有料化し、山外の無料の大門南駐車場へ誘導。パークアンドバスライドで山内へ誘導

取組み

③ 宿坊の雇用不足解消に向けた人材マッチング実証実験

内容

- OTAデータを活用し、人手不足となる宿坊を事前に検知し、短期就労者希望者をタイムリーに派遣する
- 域外からの就労希望者の就労期間に滞在できる住居を整備する

調査・分析

取組み

④ 法定外目的税の徴収にむけた協議の実施

内容

- 継続的な協議の場を設置し、法定外目的税の目的・金額・方法・時期について、合意形成を図る

地域住民と協働した観光振興

取組み

⑤ 高野山の観光課題やあるべき姿を考える懇談会の継続開催

内容

- 2034年執行の宗祖弘法大師御入定1200年記念大法会や大阪IR実現等、今後の大規模な観光客の流入を見据え、オーバーツーリズム対策に関する地域内での継続的な協議の場を設置

5-①. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 繁忙期に対応するための駐車場台数が不足している

取組み

- ・ 駐車場満空情報発信
- ・ 中心部駐車場の有料化
 - 実施期間：令和6年10月～令和7年2月
 - 実施主体：高野町、総本山金剛峰寺

事業内容

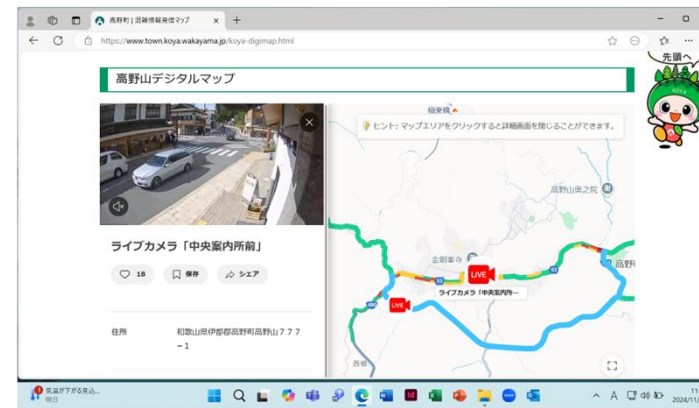
①：駐車場満空情報発信

- ・ 駐車場の満空情報をHP等にリアルタイムで掲載する
- ・ 駐車場の満空情報及び奥の院中の橋駐車場有料化について、旅行前段階・旅行中での情報発信を行う

②：中心部駐車場の有料化

- ・ 奥の院中の橋駐車場を有料化する

混雑状況を可視化・高野町ホームページでリアルタイムで発信



【背景・目的】

- ・ 駐車場不足に起因する交通問題に対し、旅行前段階での満空情報発信により、公共交通機関利用を促す。到着時には、空いている駐車場への誘導、ナンバープレート情報の収集や他データとの組み合わせにより、データに基づく観光地経営に繋げる
- ・ 駐車場が無料のため、山内に点在する駐車場を目指しマイカーが押し寄せ、空いている駐車場を求め「うるつき車両」が渋滞を誘発する他、長時間にわたり駐車する車両が多いため、駐車場の有料化を図る

入山ルートへの混雑情報発信



看板にQRコード掲載



混雑情報 & 有料化案内

精算の様子



有料化した奥之院中の橋駐車場

5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

A：混雑情報の発信：

公共交通機関利用促進への施策の有効性を検証

B：駐車場有料化：

長時間にわたり駐車する車両抑制への施策の有効性を検証

事業の成果／目標の検証結果

A：満空情報発信：

紅葉時期にページビュー数が大幅に増加。取組みに一定の効果があることを確認できたが、認知度はまだ低い水準にとどまっている。

- ・ページビュー**195回/日**(10月後半)→**757回/日**(11月)
- ・訪問者数に占める満空情報の参照割合：**数%程度**

B：駐車場有料化：

- ・来訪者からは概ね理解の声
- ・警備員配置の効率化につながった
- ・地域内での新たな収入源としても有効

成果詳細

満空情報の発信（10/16-11/24）

		10/16～31	11/1～24		
		A	B	伸び率 B/A	
デジタルマップ	ページビュー①	195.3	757.0	回/日	3.88
	ユーザー数②	37.4	102.2	人/日	2.73
乗用車交通量（花坂・観光目的）③		928	1,504	台/日	1.62
比率	①/③	0.210	0.503		
	②/③	0.040	0.068		

駐車場有料化実証実験結果（11/1-11/24）

有料化駐車場の利用台数および売上			
	売上	利用台数	一日平均
中の橋駐車場	9,251,000円	17,260台	308,333円
本山前第二	5,455,000円	8,103台	224,608円
合計	14,706,000円	25,363台	—

■ 対象期間

A：10/16-31 B：11/1-24（駐車場有料化期間）

■ 数値評価

1. デジタルマップの1日あたりのページビュー数やユーザー数は、時間の経過とともに、閲覧者の割合は増加。駐車場有料化の影響もあり
2. ユーザー数は、観光目的の乗用車交通量の4%～7%程度にとどまっており、デジタルマップの周知が必要となる

- ・ 秋の高野山来訪者数は、紅葉のタイミングおよび天候に左右されるため、一概には評価が難しいが、事業後半でのアクセスが増加
- ・ 自家用車で来訪される国内旅行客がここ数年、増加傾向にあることから、今後の周知により、混雑解消を図る必要がある

■ その他参考指標等

1. 駐車場有料化に伴い、誘導がしやすくなったことから警備員配置を例年より**22名減員に成功**（169人→147人）
2. 初の有料化であったが、苦情等はほぼなく、利用者へのヒアリングにおいては、**有料化への理解を示す声や許容する声**が大多数を占めた
3. ヒアリング調査では、**高野山を訪れてから現地で知った観光客が多数**であった（12/19名）

- ・ 初の有料化実験により、一定の駐車場収入見込額、利用者属性といった初期値の把握ができ、以降の料金設計等に活用ができる
- ・ 波及効果として、誘導員の最適化や、徒歩観光を選択する旅行客が増加したため、高野山の魅力をより感じてもらえる可能性も高い

5-①. 成果及び今後に向けて

令和6年度の取組みから見えてきた課題

- ・ 高野山における特徴として、紅葉シーズンに来訪客が集中する傾向にあるため、単純な比較ができないことが前提としてある
- ・ デジタルマップによる混雑可視化および駐車場有料化は、いずれも現地に到着するまで認知していなかった来訪者が多くを占めていた
- ・ 駐車場有料化は利用者から想定以上に受け入れられ、高野町に恩恵をもたらす一方で、違法駐車など新たな課題も発生した

1 デジタルマップの認知度向上

- ・ 来訪台数に対して、ビュー数は限定的なものとなった
- ・ 一方で高野山を訪れる手前での看板設置により、混雑状況や駐車場有料化について認知は図れたことから、今後認知度向上策を進めていくことが課題

2 駐車場有料化に伴う、路上駐車増加への対応

- ・ 多くの来訪者から、有料化に対する理解醸成はできた
- ・ 一方で、有料化を忌避して、商工会前付近に路上駐車する等の影響も発生し、車両の流動性が低くなる場面もあった

3 まち歩き観光客の増加

- ・ 駐車場の有料化に伴い、ヒアリングを行った6割の観光客が徒歩で高野山内を散策していることが判明
- ・ 高野山の観光において理想的な「徒歩+バス」での散策の有用性が認識できた

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- ・ 混雑情報の発信、有料化の周知含め、事業期間の経過と共に、認知が進んだ傾向もあるため、今後も事前周知を働きかける
- ・ 有料化については前向きな意見が多く、今回の実証実験で得た知見から、料金体系や除外者等の見直しを行い、あわせて今後も発生が想定される違法駐車対策の検討を行う
- ・ 有料化により、徒歩周遊に繋がる側面もあることから、高野山を歩いて楽しんでもらうコンテンツ作り等も同時並行で推進する必要がある

1 デジタルマップの事前周知および現地広報

- ・ 事業期間の後半、紅葉シーズンにおいてはビュー数が増加したこともあり、今後も継続的な周知が必要
- ・ 現地広報も含め実施方法については、検討が必要
- ・ デジタルマップの活用により、高野山の南側を通る国道371号(循環道路)の利用を促進

2 駐車場の料金設定や対象駐車場の拡大

- ・ 利用者の滞在時間等の初期値も獲得できたため、今後料金体系や駐車場の絶対数の拡大を検討
- ・ 迷惑駐車、違法駐車対策として、警察等との連携も強化

3 徒歩と路線バスによる山内周遊の促進

- ・ 立ち止まる場所・立ち寄る空間づくりなど、時間消費のコンテンツを増強し、徒歩および路線バスの適切な利用の促進を図る
- ・ 大型の大門南駐車場への誘導を強化

5-②. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 法定外目的税の徴税含む、各種検討が進められていない

取組み

法定外目的税の徴収にむけた協議の実施

- ・ 実施期間：令和6年12月～令和7年2月
- ・ 実施主体：高野町

事業内容

■ 法定外目的税の徴収にむけた協議の実施

- ・ 継続的な協議の場を設定する
- ・ 協議にあたっては、議論の発散を防ぐため、小規模な検討会を設置し、また有識者をにも協力をいただき、議論を継続

【背景・目的】

- ・ インバウンド需要が高まる一方で、少子高齢化が進むことで、参拝観光地高野山の公共インフラ(上水・下水・ごみ処理・公衆トイレの維持・駐車場等への警備員の配置等)を維持するための住民負担が増大、持続可能な参拝観光地の形成が難しくなって来ている
- ・ これまで実施した懇談会では、法定外税（宿泊税）の導入について意見はまとまらず、また具体的な徴収方法についても確定することができなかったことから、継続してこの課題を協議する意見交換会を開催し、徴収の対象、徴収額、徴収の方法、徴収した税の利用方法等について協議を行う必要がある
- ・ 本事業採択後も、法定外税等について、町内各関係者から意見を収集した結果、多数のご意見を頂いた

懇談会の様子



警備員の配置や公衆トイレの維持管理に大きな経費がかかる



5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 法定外税徴収の目的、金額、徴収方法、徴収対象、徴収開始時期が明確になっており、地域内の合意を得る

事業の成果／目標の検証結果

- 法定外目的税の導入には時間を要するため、まずは、山内駐車場の有料化により一定の財源を確保することを目指すこととした
- 並行して、法定外税や協力金の創設等について、町内関係者と継続的な協議を実施する

成果詳細

関係者懇談会の開催

開催実績			
会議名	開催日	会議名	開催日
第1回懇談会	2024/04/09	第10回懇談会	2024/10/03
第2回懇談会	2024/04/23	第11回懇談会	2025/12/24
第3回懇談会	2024/04/30	第12回懇談会	2025/01/21
第4回懇談会	2024/05/14	第13回懇談会	2025/02/10
第5回懇談会	2024/05/21		
第6回懇談会	2024/05/28		
第7回懇談会	2024/06/04		
第8回懇談会	2024/09/17		
第9回関係者懇談会	2024/09/24		

- 多数の地域関係者（総本山金剛峯寺、宿坊協会、商工会、観光協会、町内会、交通機関、金融機関、高野町、和歌山県等）を集めた協議の場を形成
- 法定外目的税導入に対する現状共有と意見聴取を実施

財源確保を検討する意見交換会の開催

開催実績	
第1回財源確保を検討する意見交換会	2024/12/18
第2回財源確保を検討する意見交換会	2025/01/14
第3回財源確保を検討する意見交換会	2025/01/31

- 参加委員
 - 総本山金剛峯寺
 - 一般社団法人高野山宿坊協会
 - 高野町議会
 - 和歌山大学観光学部
 - 高野町（企画公室、税務会計課、観光振興課）
 - 近畿運輸局
 - EYストラテジー・アンド・コンサルティング（伴走事務局）

- 関係者懇談会とは別に、スモールな協議体として、財源確保を検討する意見交換会を設置し、財源に関する認識あわせ・協議を行った
- 専門家である和歌山大学松田特任教授からのアドバイスや、他自治体の事例勉強会を実施（俱知安町・美瑛町・廿日市市）

5-②. 成果及び今後に向けて

令和6年度の取組みから見えてきた課題

- 法定外目的税導入に向けた初期的な協議の場を設置し、多数の関係者を集めた関係者懇談会と、スモールな協議体である検討部会を設置し、年間を通して協議を実施
- 歴史的・宗教的に特殊性の高い町であることから、徴税すること自体への是非や検討できる徴税方法について議論を行い、高野町の現状認識および財源確保の方向性の目線あわせを実施した

1 「信仰の自由」への懸念の払拭

- 公平性の高い入域料のような形を検討したが、日本仏教の聖地である高野山のお詣りに、費用が発生することに対して、懸念の声が発生した

2 物理的な徴税方法への懸念の払拭

- 公共交通機関（電車・バス）、自家用車が主なアクセス方法であるが、関係者間での初期的な議論において、入域行為に対して税を調整する方法が困難と想定された

3 観光客の受入にかかる経費の増大への対応

- 現在住民が負担している経費（公衆トイレの維持管理費、駐車場への警備員の配慮等）の負担率が他自治体と比べても大きいことが判明

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

- 少子高齢化を背景に、町民の負担額が増大していく見込みであること、来訪者される観光客にも負担いただくべき経費があることを共通認識化し、あるべき姿について協議を行った
- 本事業で実施した、駐車場有料化実証実験で得た知見も踏まえ、今後の現実的に高野町で実施できる形を模索していく

1 ステークホルダーとの継続的な協議

- 協議の場を重ねた結果、高野山における現状についての理解を深まり、また料金・税に関わらずに訪問者に負担いただくべき経費について共通認識をもつことができた
- 持続可能な観光地にむけて継続的に協議する

2

山内の駐車場の有料化等から財源確保

- 今回の駐車場の有料化実証実験により、駐車場収入や警備員への削減効果等が検証されたため、高野町および高野山が負担している経費の充当検討を進める
- 別途、法定外税や協力金等の形も検討する

現状について

- 現在は、引き続き金剛峯寺駐車場の有料化に向けた調整を行っております。